

# 第1期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

徳島大学

平成23年5月

独立行政法人大学評価・学位授与機構



## (I) 教育に関する目標

### 1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

### 2. 各中期目標の達成状況

#### ① 教育の成果に関する目標

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、2項目のすべてが「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

#### <特記すべき点>

##### (優れた点)

- 中期計画「専門領域の知識により新しい問題を発見し、解決する方法を創出でき、さらに実践的な行動力をもって社会に貢献できる進取の気風に富んだ人材を育成するために、専門教育の充実を図る」について、平成20年度文部科学省質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）に「高齢社会を担う地域育成型歯学教育」が採択され、進取の気風に富んだ人材の育成に取り組み、高い教育効果が現れているほか、平成20、21年度においても多くの教育GP等を獲得し、これらを実施することで成果を上げていることは、優れていると判断される。
- 中期計画「ヘルスバイオサイエンスを基礎とした、幅広い専門医療教育を推進する」について、平成21年度文部科学省組織的な大学教育推進プログラムに採択された「医療系クラスターによる組織的大学院教育」では、ヘルスバイオサイエンスを基礎とした幅広い専門医療教育を推進しており、蔵本地区5教育部の教員からなる「心・血管」「肥満・糖尿病」「感染・免疫」「骨とCa」「ストレスと栄養」「脳科学」の6つの研究

教育クラスターを構築し、組織横断的に学際的研究を指導できる教育体制を整えるなど成果を上げている点で、優れていると判断される。

### (特色ある点)

- 中期計画「自立して課題を探求し、問題を解決する能力を備え、専門分野に対して積極性と責任感を持つ高度専門職業人、研究者を育成するために、大学院教育の充実を図る」について、工学部では6年一貫教育カリキュラムの導入、医科学教育部、口腔科学教育部、薬科学教育部及び栄養生命科学教育部では専門分野を越えた講義の受講を可能とする授業時間割の再編成等といった取組がなされており、さらに「魅力ある大学院教育」イニシアティブに「食品機能研究を先導する人間栄養学教育拠点」等が採択されて大学院教育の充実が図られていることは、特色ある取組であると判断される。また、大学教育の国際化推進プログラム・戦略的国際連携支援プログラムに採択された、複数学位を与える国際連携大学院教育の創設を目指す取組は、今後の成果が期待される、特色ある取組であると判断される。

### (顕著な変化が認められる点)

- 中期計画「専門領域の知識により新しい問題を発見し、解決する方法を創出でき、さらに実践的な行動力をもって社会に貢献できる進取の気風に富んだ人材を育成するために、専門教育の充実を図る」について、平成16～19年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成20、21年度の実施状況においては、「良好」となった。  
(「優れた点」参照)
- 中期計画「ヘルスバイオサイエンスを基礎とした、幅広い専門医療教育を推進する」について、平成16～19年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成20、21年度の実施状況においては、「良好」となった。(「優れた点」参照)

## ② 教育内容等に関する目標

### 【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標(3項目)のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。  
平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、3項目のすべてが「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

### <特記すべき点>

### (特色ある点)

- 中期計画「全学共通教育では、教育課程を学生にとって、学修の意義や過程が明確に理解できる科目群に再編する」について、全学共通教育における学習経路表示システムを実行し、それにより個々の授業の学問としての体系的な関連付けを学生に示していることは、学生による体系的・総合的な科目履修を可能にするものであるという点で、特色ある取組であると判断される。

### ③ 教育の実施体制等に関する目標

#### 【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のうち、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

#### <特記すべき点>

#### (優れた点)

- 中期計画「学長裁量による教育・学生支援等に必要なる人的資源の活用を図る」について、全学共通教育、創成学習開発、医療教育開発、学生支援の各センターに学長裁量ポストを配置しており、創成学習開発センター、医療教育開発センターではそれぞれ特色ある大学教育支援プログラム及び現代的教育ニーズ取組支援プログラムを推進し、学生支援センターでは学生相談件数が増加するなどの成果を上げていることは、教育・学生支援等に効果的に人的資源が活用されている点で、優れていると判断される。

### ④ 学生への支援に関する目標

#### 【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、3項目のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

#### <特記すべき点>

### **(優れた点)**

- 中期目標で「各種相談支援体制の充実を図る」としていることについて、学生相談室に学長裁量ポストによる専任カウンセラーを配置してカウンセラーによる講演等を実施しているほか、学生支援センターに学生生活支援室等を設置し、学生からの要望・意見等を取り入れ、相談体制の見直しを行っていることにより、カウンセラー機能の充実や学生の要望に対応した相談活動が展開されていることは、優れていると判断される。
- 中期計画「平成 17 年度を目処に、キャンパスネットワーク上で、学生と教職員相互の情報伝達を行うための有効な環境の整備を進める」について、平成 17 年度にポータルシステムを導入して全学共通教育等向けに履修情報、学生呼び出し・伝言、休講通知等のサービスを開始し、さらに平成 18 年度にはシラバスシステム及びコンテンツマネジメントシステムへの自動リンク生成機能の追加、u-learning（ユビキタス・ラーニング）システムへの新たな機能の追加等が行われ、利用件数も向上していることは、学生と教職員相互の情報伝達が機能的・効率的に図られている点で、優れていると判断される。

### **(特色ある点)**

- 中期計画「経済的に修学困難な学生及び成績優秀者等への支援を行うため、外部資金を導入し、大学独自の育英奨学基金の充実を図る」について、経済的に修学困難な学生及び成績優秀者等への支援のために、外部資金による返済義務のない奨学金制度を設けていることは、大学独自の育英奨学金の充実を図っている点で、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「平成 20 年度を目処に、多様な留学生に対する教育プログラムの導入に努める」について、平成 21 年度から英語のみで修了可能な大学院工学教育コースを開設し、海外 8 大学（オークランド大学、慶北大学校、韓国海洋大学校、哈爾濱工業大学、同済大学、西安交通大学、北京郵電大学、大連理工大学）との提携で、ダブルディグリープログラムを推進し、ダブルディグリーを支援していることは、特色ある取組であると判断される。

### **(顕著な変化が認められる点)**

- 中期計画「経済的に修学困難な学生及び成績優秀者等への支援を行うため、外部資金を導入し、大学独自の育英奨学基金の充実を図る」について、平成 16 ～ 19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、平成 17 年度から実施している外部資金を財源とした返還義務を課さない奨学金を、平成 20 年度には学部学生 63 名に給付している。加えて、平成 21 年度からは、博士後期課程の学生を対象に、寄附金等を財源とした授業料の額の半額に相当する返済義務

の無い奨学金を給付する制度を創設し、同年度前後期合わせて 114 名の学生にこれを給付するなど、学生の生活支援に大きく寄与していることから、「良好」となった。

- 中期計画「平成 20 年度を目処に、多様な留学生に対する教育プログラムの導入に努める」について、平成 16～19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、平成 21 年度から英語のみで修了可能な大学院工学教育コースを開設し、海外の連携大学（オークランド大学、慶北大学校、韓国海洋大学校、哈爾濱工業大学、同済大学、西安交通大学、北京郵電大学、大連理工大学）とのダブルディグリープログラムにより学位取得を目指す学生の受入れが博士前期課程で 13 名（例年比約 4 倍）、博士後期課程で 7 名（例年比約 2 倍）に増加していることから、「良好」となった。

## **（Ⅱ）研究に関する目標**

### **1. 評価結果及び判断理由**

**【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である**

（判断理由） 「研究に関する目標」に係る中期目標（2 項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

（参考）

平成 16～19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

**【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である**

（判断理由） 「研究に関する目標」に係る中期目標（2 項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

### **2. 各中期目標の達成状況**

#### **① 研究水準及び研究の成果等に関する目標**

**【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である**

（判断理由） 平成 16～19 年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4 項目）のうち、1 項目が「非常に優れている」、1 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「非常に優れている」、1 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

## <特記すべき点>

### (優れた点)

- 中期計画「学部、研究科、研究センター等の研究推進計画を集約して、第一期中期計画期間における重点目標を設定し、実行する」について、大学の基本構想「豊かで健全な未来社会の実現」に対応した重点課題を定めて、21世紀 COE プログラムや科学技術振興調整費等の競争的資金を活用しながら、基礎研究及び応用開発研究が着実に推進されて高い成果を上げていることは、優れていると判断される。
- 中期計画「技術移転、ベンチャー起業、産学官連携を積極的に推進するため、本学の部局・分野を越えて研究連携を図る「研究連携推進機構」を強化し、知的財産の管理と活用を一元的に推進する」について、研究連携推進機構を整備するとともに、「徳島大学ベンチャープラットフォーム」を創設して創業支援や資金融資等を積極的に行ったことにより、技術移転、特許出願、共同研究件数が増加していることは、優れていると判断される。

## ② 研究実施体制等の整備に関する目標

### 【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5 項目）のうち、1 項目が「非常に優れている」、1 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「非常に優れている」、1 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

## <特記すべき点>

### (優れた点)

- 中期計画で「人的研究資源の有効活用を図るため、効果的な教員配置に努める」としていることについて、ヘルスバイオサイエンス研究部、ソシオテクノサイエンス研究部等において、人的研究資源の有効活用を図るための教員配置を行っていることや、各部局の研究の活性化や充実を図るために、学長裁量ポストを設けて効果的な教員配置を行っていることは、学際的研究や異分野間の協力・融合を可能とし、中核的研究拠点の形成に向けた研究体制の整備が効果的に図られている点で、優れていると判断される。
- 中期計画で「戦略的なプロジェクト研究の育成を図る」としていることについて、学長が重点的に研究資金を支援するシステムである「パイロット事業支援プログラム（研究支援事業）」が創設され、このプログラムの採択課題が 21 世紀 COE プログラム

や科学技術振興調整費等の大型外部資金を獲得するなど、戦略的なプロジェクト研究の推進が効果的に行われていることは、優れていると判断される。

### (特色ある点)

- 中期計画「プロテオミクス、構造生物学、情報生物学の研究基盤を整備しつつ、酵素・蛋白質研究を中心とした先端医療科学に関する研究を行う」及び「ポストゲノム科学を中心とした医療開発等に関する研究を行う」について、大学の重点領域に位置付けている酵素・蛋白質研究を中心とした先端医療科学研究及びゲノム機能研究は、国際的にも成果が大いに期待される研究であることから、特色ある取組であると判断される。

### (顕著な変化が認められる点)

- 中期計画「未来医療の確立を目指す基礎研究と大学病院及び産業界と連携して先端医療の実用化を目指す開発研究を推進するため、組織的な充実と改変を行い、学内に高度な成果蓄積のある生命科学分野の人材を結集した世界最高水準の研究拠点を築く」について、平成16～19年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成20、21年度の実施状況においては、平成20年度以降、基礎研究と先端医療研究を推進する取組を行い、従来は学内研究施設であった疾患酵素学研究センターが平成21年度に研究活動が高く評価されて全国共同利用・共同研究拠点として認定されており、当センターにおいて、連携する研究機関から研究者を受け入れ、酵素学の基礎研究と先導的医学応用研究を全国的規模で展開するとともに、諸外国の研究機関とも連携して酵素学の国際的拠点形成の活動を確実に進めていることから、「良好」となった。

## (Ⅲ) その他の目標

### (1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

#### 1. 評価結果及び判断理由

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標(1項目)が「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

**【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である**

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標(1項目)が「おおむ

ね良好」であることから判断した。

## 2. 各中期目標の達成状況

### ① 社会との連携、国際交流等に関する目標

#### 【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5 項目）のうち、1 項目が「非常に優れている」、4 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「非常に優れている」、4 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

#### <特記すべき点>

##### (優れた点)

- 中期計画「徳島地域連携協議会との連携を強化し、連携事業の円滑な推進を図るため、徳島大学社会連携推進機構の活動を強化し、自治体の抱える課題解決などに協力する」について、「徳島地域連携協議会」において、山間地域における人材育成、防災、地域特産品の有効活用などの多岐にわたる事業を実施し、また、「徳島大学社会連携推進機構」に地域創生センターを設置するなど機能の強化を図っていることは、優れていると判断される。

##### (特色ある点)

- 中期計画で「公開授業を含む年間 100 講座開講を維持し、公開講座・生涯学習支援を通じて地域の文化向上に貢献する」及び「医療情報ネットワークを構築し、地域の医療・保健・福祉の向上を図る」について、公開授業を含む公開講座を充実させており、受講者満足度調査でも高い評価を得ていること、また、地域医療連携センターを設置して地域関連病院との連携強化を図っていることなどは、特色ある取組であると判断される。